

安来高校植物図鑑 (2023年10月)

秋晴れの青空の下、生徒がロードレースの練習で走っている姿を見ると、植物の花の季節が終わりに近づくと感じます。実際、すでに枯れた植物が多くなりました。そんな中、今回は木本も草本も見つきましたので、両方紹介しておきます。

キミガヨランの仲間 (君が代蘭)

安来高校南門の横。こんな植物があることに皆さんはお気づきだったでしょうか。私は気づいてはいたものの、今まで花が咲く季節を見逃してきました。今年、事務の中村さんが教えてくださったおかげで、やっと豪華な花に出会うことができました。ささやかな感動です。調べてみると、キミガヨランかアツバキミガヨランのどちらか。悩みましたが、アツバキミガヨランは葉が厚くて丈夫だから垂れ下がらない、キミガヨランは垂れ下がる、と記載されていたので、おそらくキミガヨランなのだろうと推定しました。葉の先端は鋭く尖っており、触ると刺さりそうです。学名をユッカ・グロリオサといい、「栄光ある」という意味で、そこから君が代と繋がって名前がついたそうです。近くで君が代を歌ってあげたら花も喜ぶでしょうか。もともとは北アメリカ原産の植物で、明治時代に日本に持ち込まれました。しかし日本には受粉昆虫が存在しないので、花が咲いても結実はしないそうです。



ヒイラギモクセイの仲間 (柘木犀)

近づくと甘い香りが漂ってきます。モクセイ科の常緑樹で、生け垣に使われているのをよく見かけます。安来高校でも敷地の周囲に植えられています。耐陰性が強く、手入れもほとんど必要ないので、園芸的には好まれるのだそうです。「ヒイラギ」と「ギンモクセイ」の交雑種で、確かに、葉の縁はヒイラギのようにトゲトゲしく、花はギンモクセイのように気品があって周囲に甘い香りを届けています。香りはキンモクセイよりは控えめなような気もしますが、ヒイラギモクセイといえば、生物学では環境変異の代表例として扱われています。同じ1本の

木の中でも、葉を1枚1枚比較するとトゲの数が違うので、統計をとるためにそれを必死で数えたことが何度もあります。きちんとした正規分布になるのですが、最近はこの実験はしなくなりました。

この実験はしなくなりました。



イヌコウジュ (犬香薷)

秋はシソ科の植物をよく見かけます。写真の植物は、職員駐車場の近くで見かけたものです。シソ科の特徴を持っているのはよくわかるのですが、何という名前なのかかわからない…。最近スマホのアプリで、写真を撮ると植物の名前を示してくれるものがあります。そういったアプリでこの植物を検索すると、ヒメジソと出てきました。しかし市販の図鑑で調べると、どうもじっくりこない。すると、ヒメジソによく似たイヌコウジュという植物があることがわかりました。イヌコウジュは萼(がく)の先端が尖っていること、全体的に細かい毛が密生すること、などの特徴があるそうで、そちらに近いと判断しました。アプリで調べたものは、参考程度にしたほうがよいのではないかと、いつも思います。



ヒロハハウキギク (広葉薔菊)

秋はキク科の植物もよく見かけます。しかしみんな似たり寄ったりで、なかなか区別しにくく、いつも判断に迷います。しかしこの花は雰囲気違ったため、ふっと目に留まりました。ハウキギクに似ているけれども、ハウキギクより葉が広いので、この名前があるそうです。広いといっても私の感覚としては結構細い葉だったので、違和感がありました。順調に成長すると、かなり背が高くなるそうですが、安来高校で見られたものはせいぜい30cmくらいでしょうか。



オオアレチノギク (大荒地野菊)

今年度の安来高校では外壁工事があったため、校舎の周囲に安全のための柵が設置されました。それをチャンスとばかりに、雑草たちは思う存分成長し、右の写真のような背の高さになっていました。明らかに私の身長より大きかったです。その雑草群を観察すると、きちんと2種類が混在していました。1つは、2020年9月にも紹介したヒメムカシヨモギ。その時にも記載したのですが、少しだけ花が開くのが特徴です。もう1つはオオアレチノギク。こちらは花が開かないのが特徴です。比較の写真も撮ることができました。右写真のような雑草群を見つけたら、花の形を確認してみてください。



ヒメムカシヨモギ



オオアレチノギク

